

第1回 トラック産業の将来ビジョンに関する検討会の概要について

開催日時：平成22年3月2日（火） 18：00～20：10

会 場：国土交通省11階 特別会議室

- 冒頭、自動車交通局長より挨拶、事務局より資料説明の後、意見交換を行った。
- 各委員からは、次のような意見があった。
 - ・ 将来の国内市場の縮小が予想される中、サプライチェーン全体の中で役割を位置づけ、3PLや運送自体に付加価値をつけるなど高度化・高付加価値化に取り組んでいくことが必要ではないか。
 - ・ ある程度の事業規模がある事業者においては、アジアを中心とした海外進出に積極的に取り組むことも必要ではないか。
 - ・ 荷主や消費者の視点から、環境・安全面などでの品質の高さにより選択していただける市場を構築することが重要ではないか。
 - ・ 環境・安全等の社会的責務を果たすため、コンプライアンス等のコストを負担しつつ持続的な成長を図っていくためには、生産性の向上を図ることが必要。
 - ・ 宅配サービスは、今一度顧客の立場に立って考え高齢化社会、地域の活性化、国際化への対応がキーワード。
 - ・ 多くの中小規模の事業者には、運賃低下や労働力確保が課題。若年労働力の確保のため、魅力のある業界にしていくことが必要である。
 - ・ 荷主等との関係において、サービスには相応の対価が伴うとの社会的コンセンサス作りが重要となるのではないか。
 - ・ 今後のトラック産業は、総合的に物流を受託する事業者と専ら実運送を担う事業者に分化していくことが考えられるが、この場合には、元請事業者と下請事業者間のルールの明確化が必要ではないか。
 - ・ 規制緩和により、10両以下の中小零細事業者が増加し、運賃が低下することとなった。最低車両台数の見直しをして頂きたい。
 - ・ 現行制度においては、トラック事業を経営する「資格」と「資質」の乖離が認められるのではないか。
 - ・ 適正なコストを反映した運賃水準になっていないことが最重要課題。
 - ・ 小規模事業者の社会保険の未加入、労働基準法が守られていない実態もあり、正直者が損をしない産業にしていくことが今後の課題。
- 意見交換終了後、三日月国土交通大臣政務官からご挨拶があった。
- 第2回検討会は、4月中旬に開催することをお知らせし閉会した。

<文責：事務局>